



茨城県立並木中等教育学校 グランドデザイン 2020

□ 学校教育目標 Be a Top Learner ! 1 建学の精神・教育理念をもとに、生徒に科学的素養や国際感覚、高い学力を身につけさせるとともに、「人間力」を備えた次世代を担うリーダーとして育成する。 2 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校として、本校の教育の柱の一つの科学教育を推進するとともに、グローバル社会が求める新しい教育を追求・実践し、全国に誇れる県立中等教育学校を目指す。 3 キャリア教育の視点のもと、全ての教育活動を展開し、進学指導を一層充実させ、高い志の実現、海外の大学も視野に入れた生徒の進路実現を目指す。
--

□ 令和2（2020）年度重点目標 1 意欲ある学校風土の醸成 2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成 3 SSH事業第2期目の推進 4 6年間を見通した校内体制・医学コースの充実
--

□ 豊かな人間性 ・生徒主体の活動推進による、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成 ・6年間の学校行事の体系化 ・学校教育の一環として教育課程との連携を図る部活動運営の工夫改善	□ 健康・体力・団結力 ・並木中等3大行事 かえで祭（文化祭） スポーツデイ ウォークラリー ・鴨川学級づくり合宿（1年次）・プリティッシュヒルズ国内語学研修（2年次）・広島・京都平和研修（3年次）・ニュージーランド語学研修（4年次）・アジア修学旅行（5年次）
---	--

□ 何ができるようになるか <新しい時代に必要となる資質・能力を育成する> ・「アクティブ・ラーニング（AL）」の推進により「論理力」を育てる … 「アクティブラーナー」への成長 ・ICTの効果的活用を工夫し、生徒の「思考力・判断力・表現力等」の能力を育てる … 探究力 論理力 表現力 ・縦割り活動を通して、生徒が協働して学ぶ態度やリーダーシップを育てる … お互いへのリスペクト	資質能力の育成 	□ 何が身についたか <多様な視点での学習評価の在り方> ・観点別学習状況評価 ・ルーブリック評価 ・生徒個人の学びの成長（eポートフォリオによる成長の記録保持）
--	--------------------	--

□ 生徒の実態 ・主体的に学校生活を送る生徒が多くみられるが6年間のスパンの中での中弛みが課題である。 ・学習意欲の高い生徒が多いなか支援を要する生徒もみられる。 ・リーダーとしての素質がある生徒および探究意欲の高い生徒が多い。	□ 生徒の発達をどのように支援するのか ・不登校傾向にある生徒及び家庭への支援 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの情報交換 ・月1回の年次主任会での情報共有（管理職、養護教諭、教育相談担当職員の参加） ・生徒との面談	□ 目指す生徒の姿 ・アクティブラーナーとしての学習へ向かう態度の醸成 ・縦割り活動によるリーダーシップと他者へのリスペクトの醸成 ・生徒主体の組織運営による特別活動（3大行事、部活動、各種委員会活動等）
--	---	--

□ 何を学ぶか（特色ある学び） <学校設定科目「理数探究」を中心としたSSHカリキュラム> ・論理国語 ・数理科学AB ・SS物理基礎 ・SS物理αβ ・SS化学基礎 ・SS化学 ・SS生物基礎αβ ・SS生物αβ ・リーディング演習ⅠⅡ ・ライティング演習ⅠⅡ ・理数探究基礎 ・理数探究ⅠⅡⅢ	□ どのように学ぶか（学びのスタイル） <主体的・対話的で深い学びを中心とした学習目標の推進> ・アクティブ・ラーニング ・ICT活用 ・TO（Teaching Others）学習 ・R80 ・クロスカリキュラム ・課題探究 ・キャリア教育 ・ユネスコスクール ・ラーニング・コモンズでの自主学習 ・グローバルリーダー育成（英語及び国語での4技能育成）
--	---

□ 実施するために何が必要か ・校長及び各校務分掌主催ミニ研修の実施 ・職員の各種研修講座への積極的参加 ・コンプライアンスボトムアップ研修の実施 ・毎月1週間の教職員間の「授業ちょっと見週間」の実施 ・全県下教職員へのAL授業公開 ・毎年2回の学校評議員会の開催 ・県内外及び海外からの視察等の積極的受け入れ

□ 安心・安全を守る（防災教育） ・年2回の避難訓練 ・防災意識を高める学習および研修（1年次） ・学校生活部主催のマナーアップ運動 ・登下校手段別交通安全集会	□ 開かれた学校づくり（保護者、地域など） ・小学校4、5、6年生への学校説明会 ・近隣住民や小学生、保護者等への学校一般公開（授業及び部活動公開、生徒会主催ツアーガイドなど） ・かえで祭での来校者へのおもてなし
---	--